NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!


国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

大会に参加しよう



（財）日本ハンドボール協会競技本部長　　江成元伸

夏の各種全国大会も終わり、次のシーズン、新しい目標に向けて新しいチームのスタートを切ったところだと思います。夏の全国大会出場、優勝を目指し全国各地で厳しい予選を戦い、それぞれの栄冠を勝ち取ったチームや、惜しくもその思いを遂げられなかったチームもあるでしょう。秋のシーズンから来年に向けて、新たな挑戦に取り組むことを期待しています。

さて、今年は5月に兵庫県を中心に近畿各県でナショナルサーキット、同じく５月に大阪市で東アジア大会、７月に広島県でヒロシマ国際、８月に秋田県でワールドゲームズの種目としてビーチハンドボールを開催するなど、全国各地で国際大会が目白押しでした。数カ月の間にこれだけの国際大会は今までなかったのではないでしょうか。特に、東アジア大会はアジアハンドボール連盟の主催大会として、ビーチハンドボールは第１回の世界選手権として国際ハンドボール連盟の主催大会となりました。これだけの国際大会を短期間のうちに開催、運営することは日本協会としても地元協会、実行委員会のみなさんとともに大変な労力を割かなければなりませんでした。しかしながら、どの大会も多くの観客のみなさんにきていただき、選手を応援していただいたおかげで、大会は成功のうちに終わることができました。

日本協会は登録チーム、登録選手の活動を側面から支援する普及活動と、また一方で、日本代表チーム、選手を支援する強化活動を二本の柱としています。私達はそのどちらも重要な役割だと認識して、常に前進できるよう努力したいと考えています。いわゆる地方大会の充実はハンドボール発展の基盤と考えています。どの地区の大会も同じ要領でハンドボールができるよう環境を整備しています。その中でチーム、選手はまず大会に出場することが自らの喜びとなります。地域の大会は自分たちだけの試合であり、観客も応援も少ない中での試合でしょう。大会が進むにつれ大会役員がいろいろな役割分担をして大会を運営していきます。また、観客のみなさんも多く応援にきて下さいます。選手や関係者はどの大会でも多くの人の手によって支えられていることに感謝をしてください。そして自分だけの喜びだけで終始するのではなく、他の人の大会にも積極的に出かけていき、喜びや感動を共有できるような観戦をしてほしいと願っています。日本リーグや日本代表選手の大会を見に行きましょう。試合会場で大きな声援を送ってください。いいプレーを学びながら好きなチームを、選手を応援しましょう。

日本協会主催の大会は新しい試みを模索しています。コート上ではハーフタイムに別のハンドボールを見ていただいたり、観客のみなさんが参加できるような催し物を企画したり、コートサイドやロビーで選手と一緒に写真を撮ったりサイン会のコーナーを設けたり、大会最終日に行われるさよならパーティーに参加して選手と交歓できるような企画も行っています。

まず大会に出場し自らが楽しみ、そして大きな大会を観戦していいものを吸収し、そして大会で選手と一体となって喜びや感動をともにする。今後も国際大会をはじめとして多くの大会が開催されます。是非機会を作って大会に参加しましょう。

平成13年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第52回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子試合結果

大分国際情報高等学校（大　分）		34	26	31	33	20
國學院大学栃木高等学校（栃　木）	32	15				
中越高等学校（新　潟）	14					
県立香川中央高等学校（香　川）	16					
県立不来方高等学校（岩　手）	19	25	17			
県立倉敷青陵高等学校（岡　山）		12				
県立松蔭高等学校（愛　知）		18	19			
県立小林工業高等学校（宮　崎）	17	17				
県立東根工業高等学校（山　形）	10					
北海道函館工業高等学校（北海道）	12					
府立洛北高等学校（京　都）	23	13				
浦和学院高等学校（埼　玉）		15	22	16		
仙台市立仙台商業高等学校（宮　城）		21				
県立池田高等学校（徳　島）	16					
県立熊本工業高等学校（熊本２）	35	29	28			
九州産業大学付属九州産業高等学校（福　岡）	19					
県立富岡高等学校（群　馬）	25	35	31	29		
県立彦根東高等学校（滋　賀）		24				
県立広高等学校（広　島）		17				
県立紀北農芸高等学校（和歌山）	11					
県立四日市工業高等学校（三　重）	29	27	33			
県立那覇西高等学校（沖　縄）	36	39	34	31	22	
市川高等学校（千　葉）	23					
県立氷見高等学校（富　山）		35				

熊本国府高等学校（熊本１）		31	32	29		
県立長野南高等学校（長　野）	17					
法政大学第二高等学校（神奈川）	24	15				
県立添上高等学校（奈　良）	16					
学校法人石川高等学校（福　島）	27	27	17			
岐阜市立岐阜商業高等学校（岐　阜）		16				
県立三本木高等学校（青　森）		10				
北陸高等学校（福　井）	17					
県立伊奈高等学校（茨　城）	21	23	24	30	17	
県立境高等学校（鳥　取）	21	22	11			
県立国分高等学校（鹿児島）	19					
県立松山商業高等学校（愛　媛）		19				
此花学院高等学校（大　阪）		23	37	20		
駿台甲府高等学校（山　梨）	24	17				
県立神埼清明高等学校（佐　賀）	11					
清水市立商業高等学校（静　岡）	23	14				
県立松江南高等学校（島　根）	8					
県立高知南高等学校（高　知）		17	18			
県立湯沢高等学校（秋　田）		18				
育英高等学校（兵　庫）	22	33	12			
安田学園高等学校（東　京）	14					
県立岩国工業高等学校（山　口）	15	8				
金沢市立工業高等学校（石　川）	12					
瓊浦高等学校（長　崎）		18	32	30	25	22

優勝　瓊浦高等学校

平成13年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第52回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子試合結果

優勝　桜花学園高等学校

宣真高等学校（大阪）　15
30
桜花学園高等学校（愛知）　27
22
県立福井商業高等学校（福井）　20
21
横浜創英短期大学女子高等学校（神奈川）　23
22
県立郡山東高等学校（福島）　19
17
筑紫女学園高等学校（福岡）　14
29
宮崎女子高等学校（宮崎）　18
20
県立高知南高等学校（高知）　6
21
聖和学園高等学校（宮城）　36
16
熊本市立必由館高等学校（熊本2）　33
17
松江市立女子高等学校（島根）　19
21
浦和実業学園高等学校（埼玉）　26
17
県立陽明高等学校（沖縄）　25
23
県立巻高等学校（新潟）　3
20
県立盛岡第二高等学校（岩手）　41
29
県立境高等学校（鳥取）　9
14
昭和学院高等学校（千葉）　28
18
県立添上高等学校（奈良）　20
24
暁高等学校（三重）　24
12
県立山梨高等学校（山梨）　21
6
県立高松商業高等学校（香川）　19
19
県立鹿児島南高等学校（鹿児島）　33
22
初芝橋本高等学校（和歌山）　17
18
小松市立高等学校（石川）　27

夙川学院高等学校（兵庫）　31
20
清水市立商業高等学校（静岡）　24
9
北海道札幌月寒高等学校（北海道）　11
28
県立神埼清明高等学校（佐賀）　13
17
県立水海道第二高等学校（茨城）　26
15
県立倉敷中央高等学校（岡山）　15
23
県立佐世保西高等学校（長崎）　14
9
守山市立守山女子高等学校（滋賀）　12
20
県立今治北高等学校（愛媛）　22
13
文化女子大学附属杉並高等学校（東京）　28
37
県立大曲農業高等学校（秋田）　21
16
県立屋代高等学校（長野）　18
16
県立栃木女子高等学校（栃木）　16
16
県立華陵高等学校（山口）　35
25
県立池田高等学校（徳島）　6
14
高岡向陵高等学校（富山）　22
21
県立東根工業高等学校（山形）　10
19
県立松橋高等学校（熊本1）　25
20
県立高山高等学校（岐阜）　12
23
県立大分鶴崎高等学校（大分）　33
32
県立富岡東高等学校（群馬）　10
28
県立青森中央高等学校（青森）　21
10
県立賀茂高等学校（広島）　17
15
府立洛北高等学校（京都）　30

第3回全日本ビーチハンドボール選手権大会を終えて
男女とも全日本チームが優勝

兵庫県ハンドボール協会　**丸茂　康子**

平成13年8月4日(土)、5日(日)、兵庫県神戸市内舞子海岸「アジュール舞子」にて第3回全日本ビーチハンドボール選手権大会が開催されました。

「アジュール舞子」海岸は古くから「舞子の浜」として知られ、現在では明石海峡大橋をバックに淡路島を望み、設備も充実した神戸市としても最高の海水浴場でもあります。このようなすばらしいロケーションの中で若者に人気のあるビーチバレーに続けと、ハンドボールのビーチ版「ビーチハンドボール」の全国大会を主管した兵庫県ハンドボール協会ですが、誰一人としてビーチハンドを観たこともない、したこともないという、ないない尽くしから出発しました。

ビーチハンドを担当するスタッフ3名が4月に千葉県で開催された審判講習会に出向き、そこで初めてルールやコート設営等を学びました。そこでは日本協会ビーチハンドボール委員会委員長、本間先生にコート作りの「いろは」から教わりました。砂浜にゴールポストが沈まないように、



また、倒れないようにするにはどういう補助器具を作れば良いかとか、ラインテープの収縮具合は…等々グランドや体育館でのハンドボールからは考えられない、想像もつかない問題も多々でてきました。何回かのミーティングの結果、何とかコート設営については見通しもたちました。が、さて参加チームがどれくらいなのか全く計算ができません。全日本選手権大会といえどオープン参加でしたので全く予想がたちません。よって試合の組み合わせも組めません。プログラム印刷の関係もあり期限ぎりぎりまで待ち、やっと組み合わせや時間が決定しました。このような苦労は今後ビーチハンドが普及発展し、定着すれば解消されてくる



とは思いますので今後に期待します。

次にまた、問題がでてきました。審判員がいないということです。各種別の全国大会がめじろ押しのこの時期ですので従来のシステムがとれません。今後のこともあり若者に目を向け、ルールブックやビデオを参考にビーチハンド独自のルールを勉強してもらい、審判講習を受け当日に間に合わせました。

彼らも熱心でわからないところはすぐに経験ある先輩のご指導を仰ぎ、試合数を重ねるに連れ上達し、様になっていたように思います。デリゲートについては各チーム1名帯同システムをとりました。

何しろ観たこともない、したこともないビーチハンド未開の地から全てを賄うことは難しく、日本協会をはじめ選手の皆様のご協力ご理解のもとに運営が進んでいく状態で誠に感謝しております。

試合はそれぞれ熱く燃えながら、かつ楽しく行われたのではないでしょうか。いつものハンドボールと違い、戸惑いながらもゴールキーパーが攻撃に加わり、ボーナスポイントを得点し喜べば、砂浜に足をとられたため選手交替が遅れ、ゴールが無人状態になり簡単に得点を返される等珍プレーも多々ありました。ビーチの開放的な雰囲気と和気藹々の中で大会は進み、全日本男女の優勝ということで幕を閉じました。

今回は雑誌や新聞でも紹介され、地元サンTVやNHKも取材に来られ放映されました。また、開催地神戸市も力を入れてくださいました。いろいろな方々のご協力ご尽力のもとで初めて神戸に着地したこの大会をきっかけに、砂浜で楽しめるスポーツとして西日本も広まっていってほしい

と願っております。

ビーチハンドボールはハンドボール経験者だけでなく誰にでも受け入れることのできるスポーツです。ゴムボールとゴールポストがあればできるのです。また、砂浜ですのでフィットネス効果もあります。

未知なるビーチハンドに挑んだ一員としてこの経験を生かし、ビーチバレー、ビーチフットサル以上に広く発展させたいと考えております。

例年にない猛暑の続く今夏、今大会を開催するにあたり、多くの方々のご尽力ご協力を賜り、誠にありがとうございました。深く感謝の意を表しますとともにビーチハンドボールの今後の益々の普及発展を心より祈念いたします。

男　子

	全　日　本	東北電力	ボンバーズ	ＹＫＯ神戸	神戸製鋼ク	バッカーズ	順　位
全　日　本	♠	○　2-0	○　2-0	○　2-0	○　2-0	○　2-0	1
東北電力	×　0-2	♠	×　0-2	○　1-1(4-2)	○　1-1(2-0)	○　2-0	3
ボンバーズ	×　0-2	○　2-0	♠	○　2-0	○　2-0	○　2-0	2
ＹＫＯ神戸	×　0-2	×　1-1(2-4)	×　0-2	♠	○　1-1(6-5)	○　1-1(4-3)	4
神戸製鋼ク	×　0-2	×　1-1(0-2)	×　0-2	×　1-1(5-6)	♠	×　1-1(2-3)	6
バッカーズ	×　0-2	×　0-2	×　0-2	×　1-1(3-4)	○　1-1(3-2)	♠	5

男子の部　優勝　全日本チーム（５勝）　準優勝　ボンバーズ（４勝１敗）　３位　東北電力ＨＢＣ（３勝２敗）

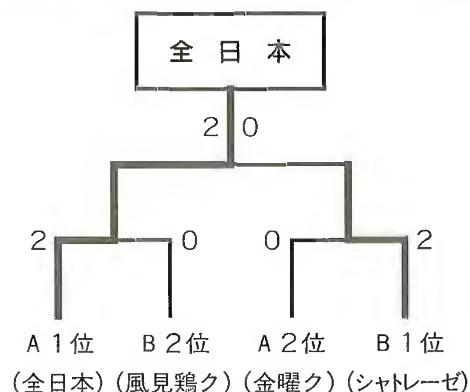
女　子

〈Aブロック〉

	全　日　本	金曜クラブ	La Victoire	鈴蘭台高校	順　位
全　日　本	♥	○　2-0	○　2-0	○　2-0	1
金曜クラブ	×　0-2	♥	○　2-0	○　2-0	2
La Victoire	×　0-2	×　0-2	♥	×　1-1(1-2)	4
鈴蘭台高校	×　0-2	×　0-2	○　1-1(2-1)	♥	3

〈Bブロック〉

	シャトレーゼ	風見鶏クラブ	神　港　高　校	順　位
シャトレーゼ	♥	○　2-0	○　2-0	1
風見鶏クラブ	×　0-2	♥	○　2-0	2
神　港　高　校	×　0-2	×　0-2	♥	3



３位決定戦
風見鶏ク　　金　曜　ク
2　－　0

A　4　位　　B　3　位
（La Victoire）　（神港高校）
2　－　0

A　3　位　　B　3　位
（鈴蘭台高校）　（神港高校）
2　－　0

女子の部　優勝　全日本チーム　準優勝　シャトレーゼ　３位　風見鶏クラブ

高松宮杯第42回全日本実業団選手権大会

男子は湧永製薬、女子は広島メイプルレッズが優勝

高松宮杯第42回全日本実業団選手権大会は、７月11日から15日までの５日間、熊本県山鹿市を中心に、三加和町、鹿央町、鹿本町の４会場で熱戦を展開した。

男子は、決勝リーグに湧永製薬、本田技研、大同特殊鋼、本田技研熊本の４チームが勝ち上がり、激しい戦いを繰り広げたが、湧永製薬が本田技研を18―16で破って優勝を飾った。

女子は、広島メイプルレッズ、北国銀行、オムロン、ブラザー工業の４チームが決勝リーグに勝ち上がったが、広島メイプルレッズがいずれも接戦を制して優勝を飾った。

試合結果

《男子》

■ 予選トーナメントAブロック

北陸電力	28―24	アラコ九州
湧永製薬	39―12	北陸電力

■ 予選トーナメントBブロック

本田技研熊本	28―13	金沢市役所
本田技研熊本	20―14	大崎電気

■ 予選トーナメントCブロック

トヨタ車体	22―15	デンソーファドレス
大同特殊鋼	24―14	トヨタ車体

■ 予選トーナメントDブロック

インテック21	27―25	日新製鋼
本田技研	29―12	インテック21

■ 順位決定戦

アラコ九州	24―23	金沢市役所
デンソーファドレス	21―18	日新製鋼
日新製鋼	29―24	金沢市役所
アラコ九州	25―24	デンソーファドレス
大崎電気	20―11	北陸電力
トヨタ車体	20―15	インテックス21
インテックス21	21―16	北陸電力
大崎電気	21―18	トヨタ車体

■ 決勝リーグ

湧永製薬	19―16	本田技研熊本
本田技研	16―14	大同特殊鋼
湧永製薬	27―23	大同特殊鋼
本田技研	20―19	本田技研熊本
大同特殊鋼	21―12	本田技研熊本
湧永製薬	18―16	本田技研

■ 最終順位

優勝	湧永製薬
準優勝	本田技研
3位	大同特殊鋼
4位	本田技研熊本
5位	大崎電気
6位	トヨタ車体
7位	インテックス21
8位	北陸電力
9位	アラコ九州
10位	デンソーファドレス
11位	日新製鋼
12位	金沢市役所

《女子》

■ 予選トーナメントAブロック

ソニーセミコンダクタ九州	21―15	香川銀行ＴＨ
オムロン	28―10	ソニーセミコンダクタ九州

■ 予選トーナメントBブロック

北国銀行	19―17	シャトレーゼ

■ 予選トーナメントCブロック

広島メイプルレッズ	25―21	日立栃木

■ 予選トーナメントDブロック

ブラザー工業	23―11	ムネカタ
ブラザー工業	18―17	立山アルミ

■ 順位決定トーナメント

ムネカタ	20―13	香川銀行ＴＨ
シャトレーゼ	23―12	ソニーセミコンダクタ九州
日立栃木	19―17	立山アルミ
立山アルミ	19―18	ソニーセミコンダクタ九州
日立栃木	19―15	シャトレーゼ

■ 決勝リーグ

北国銀行	23―18	オムロン
広島メイプルレッズ	25―18	ブラザー工業
北国銀行	17―12	ブラザー工業
広島メイプルレッズ	22―20	オムロン
オムロン	23―8	ブラザー工業
広島メイプルレッズ	24―18	北国銀行

■ 最終順位

優勝	広島メイプルレッズ
準優勝	北国銀行
3位	オムロン
4位	ブラザー工業
5位	日立栃木
6位	シャトレーゼ
7位	立山アルミ
8位	ソニーセミコンダクタ九州
9位	ムネカタ
10位	香川銀行ＴＨ

第9回全日本ハンドボールマスターズ大会を振り返って

本大会の趣旨は一定の年齢以上のハンドボーラーが一堂に会し、広く生涯スポーツとして楽しみ、親睦と友情を深める機会とすることである。これは、スポーツ振興基本計画中間報告（平成12年発表）で提唱された「国民のだれもがそれぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでもいつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現する」と合致するものである。

この趣旨に賛同するハンドボーラーが豊田市に集い第9回大会（7／27～29）が開催された。参加チームは、北は岩手県から南は沖縄に至るまで男子21チーム、女子11チームであった。

マスターズ大会の参加資格は「男子は40才以上とし、チーム編成上、38才以上の選手を2名まで含むことができる。女子は35才を下限とし、30才以上の選手を2名まで含むことができる」。また、個人での参加も認められ、所属チームは大会本部の調整で行われた。

試合をできるだけ多くし、年齢・技術に応じて楽しむことができるように、男子は7チームを1グループとし、YOUNG･ADULT･SENIORの3つのグループに、女子は5チームと6チームのUNDER40・OVER40の2つのグループに分けリーグ戦を行った。（女子の5チームのグループは予選リーグ・決勝トーナメント）

7月27日の午後7時から開会式及び競技運営委員会が開かれ、翌28日から、総試合数91試合の熱戦の火ぶたが切られた。

試合は15分ハーフと20分の変則的な時間で行われた。どの試合もハンドボールを楽しむことを第一に和気あいあいの雰囲気で行われた。女子の試合では、ベンチにいる自分の子供の応援を受け、元気にプレーしているママさんプレーヤーもいた。また、「お父さん、もう行くのはやめなさい。けがでもしたら困るわよ」と奥様に言われたが、好きなので春から走り始め体調を整えて参加した。というマスターズ大会常連の選手もいた。



◀写真1



◀写真2

本大会の新しい試みとして、55才以上のプレーヤーは金色の短パンを、50才以上は銀色の短パンを着用するようにした。金色パンツ姿のプレーヤーがシュートを決めると敵味方分け隔てなく、拍手が沸き起こる場面も多く見られた。また、金色パンツ銀色パンツのプレーヤーには守る方にも優しさがあったように感じた。（**写真1**）

どの選手も、高校や大学あるいは実業団でプレーした人たちばかりで、チームとしての円熟味もすばらしく、随所に好プレーを披露していた。また、日本リーグで活躍していた選手もいて、元全日本の選手も数名見られた。（**写真2**）



◀写真3



◀写真4

大会１日目のお昼には、「親子で楽しむ、子供交流タイム」を行った。選手もここでは父親・母親の顔になり、子供と一緒に楽しんでいた。130名（子供100名・親30名）の参加者があり、じゃんけんゲーム・集合ゲーム・ハンドボール入門ゲーム・７ｍスローコンテストなどが行われ、１時間があっという間に過ぎていった。（写真３）

28日の夜には懇親会が中京大学の学生食堂で行われた。360名ほどの参加者があり（もちろん子供も同伴であったが）、大いに語り、飲み、夜が更けるのも忘れ、思い出話やハンドボール談義に花が咲いていた。（写真４）

本大会を通じて、ハンドボールを愛する人々の多いことに感心させられた。この大会でハンドボールを楽しんだ体験が各県、各地域で話題になれば、ますます参加するチームも増加すると予想される。このマスターズ大会が生涯スポーツ社会実現の一歩ではないかと感じた。

本大会を支えてくださった愛知県ハンドボール協会の皆様、中京大学、桜花学園の学生、並びに岡崎城西高校の生徒の皆様に感謝を申しあげたいと思います。

試合結果

【女子の部】 UNDER40　予選リーグ

	スズッキーズ	KAI･CLUB	瀬戸内レディース	ビタミンAichi	風見鶏ファミリーズ	順位	成　績
スズッキーズ		○ 9－8	△ 9－9	○ 11－10	● 8－13	2	2勝1敗1分
KAI･CLUB	● 8－9		○ 15－11	● 4－11	● 4－12	4	1勝3敗
瀬戸内レディース	△ 9－9	● 11－15		● 15－19	● 4－17	5	0勝3敗1分
ビタミンAichi	● 10－11	○ 11－4	○ 19－15		● 8－12	3	2勝2敗
風見鶏ファミリーズ	○ 13－8	○ 12－4	○ 17－4	○ 12－8		1	4勝

決勝トーナメント
　２・３位決定戦　ビタミンAichi　15－10　スズッキーズ
　４・５位決定戦　瀬戸内レディース　棄　権　KAI･CLUB
　決勝　ビタミンAichi　9－7　風見鶏ファミリーズ
1位　ビタミンAichi　　2位　風見鶏ファミリーズ　　3位　スズッキーズ

OVER40　予選リーグ

	武蔵野クラブ	モッピークラブ	中部ドリームス	岐阜クラブ	ギャロップレディース	マミーズ	順位	成　績
武蔵野クラブ		○ 15－7	○ 13－9	○ 15－7	● 6－9	● 10－13	3	3勝2敗
モッピークラブ	● 7－15		● 4－12	○ 11－8	● 2－10	● 4－14	5	1勝4敗
中部ドリームス	● 9－13	○ 12－4		○ 17－4	● 9－10	△ 12－12	4	2勝2敗1分
岐阜クラブ	● 7－15	● 8－11	● 4－17		● 5－19	● 3－16	6	5敗
ギャロップレディース	○ 9－6	○ 10－2	○ 10－9	○ 19－5		○ 11－9	1	5勝
マミーズ	○ 13－10	○ 14－4	△ 12－12	○ 16－3	● 9－11		2	3勝1敗1分

1位　ギャロップレディース　　2位　マミーズ　　3位　武蔵野クラブ

【男子の部】 YOUNG　予選リーグ

	東山クラブ	下関巌流会	オールド愛媛S	沖縄三六会	知多クラブ	埼玉教員クラブ	紫風会	順位	成績
東山クラブ		● 12−26	● 14−15	● 6−12	○ 9−5	● 8−22	○ 18−14	5	2勝4敗
下関巌流会	○ 26−12		○ 14−13	● 15−20	○ 10−3	● 6−11	○ 21−13	3	4勝2敗
オールド愛媛S	○ 15−14	● 13−14		● 11−12	○ 16−8	● 4−14	○ 13−7	4	3勝3敗
沖縄三六会	○ 12−6	○ 20−15	○ 12−11		○ 17−8	● 12−19	○ 9−6	2	5勝1敗
知多クラブ	● 5−9	● 3−10	● 8−16	● 8−17		● 9−15	○ 16−14	6	1勝5敗
埼玉教員クラブ	○ 22−8	○ 11−6	○ 14−4	○ 19−12	○ 15−9		○ 21−14	1	6勝0敗
紫風会	● 14−18	● 13−21	● 7−13	● 6−9	● 14−16	● 14−21		7	0勝6敗

1位　埼玉教員クラブ　　2位　沖縄三六会　　3位　下関巌流会

ADULT　予選リーグ

	オールド愛媛G	下松クラブアダルツ	名城オールスターズ	兵庫選抜	ソフィアエデュケーター	生駒オークス	神楽坂フェニックス	順位	成績
オールド愛媛G		● 7−14	● 10−15	● 2−12	● 5−9	● 5−17	● 5−21	7	0勝6敗
下松クラブアダルツ	○ 14−7		△ 16−16	● 12−13	○ 15−8	○ 8−6	○ 15−14	1	4勝1敗1分
名城オールスターズ	○ 15−10	△ 16−16		○ 17−6	● 14−15	● 8−13	○ 15−8	4	3勝2敗1分
兵庫選抜	○ 12−2	○ 13−12	● 6−17		○ 15−9	△ 11−11	○ 13−9	2	4勝1敗1分
ソフィアエデュケーター	○ 9−5	● 8−15	○ 15−14	● 9−15		○ 15−13	● 12−15	5	3勝3敗
生駒オークス	○ 17−5	● 6−8	○ 13−8	△ 11−11	● 13−15		○ 17−12	3	3勝2敗1分
神楽坂フェニックス	○ 21−5	● 14−15	● 8−15	● 9−13	○ 15−12	● 12−17		6	2勝4敗

1位　下松クラブアダルツ　　2位　兵庫選抜　　3位　生駒オークス

SENIOR　予選リーグ

	ATF	LBCアルバトロス	46G会	豊橋マスターズ	櫻ドール	三景	ガンバ花クラブ	順位	成績
ATF		○ 16−8	● 12−14	○ 12−8	○ 9−5	● 12−17	● 14−19	4	3勝3敗
LBCアルバトロス	● 8−16		● 10−19	● 8−14	△ 5−5	● 6−13	● 13−20	7	0勝5敗1分
46G会	○ 14−12	○ 19−10		○ 21−9	○ 12−9	△ 9−9	● 6−16	3	4勝1敗1分
豊橋マスターズ	● 8−12	○ 14−8	● 9−21		○ 12−11	● 9−24	● 4−17	5	2勝4敗
櫻ドール	● 5−9	△ 5−5	● 9−12	● 11−12		● 7−16	● 6−22	6	0勝5敗1分
三景	○ 17−12	○ 13−6	△ 9−9	○ 24−9	○ 16−7		● 9−25	2	4勝1敗1分
ガンバ花クラブ	○ 19−14	○ 20−13	○ 16−6	○ 17−4	○ 22−6	○ 25−9		1	6勝0敗

1位　ガンバ花クラブ　　2位　三景　　3位　46G会

第21回全国クラブ選手権大会東地区大会
男子・渡辺組、女子・オレンジクラブ ともに初優勝を飾る

第21回全国クラブ選手権大会東地区大会は、7月28日、29日の2日間にわたって、本宮町総合体育館をメイン会場に、本宮体育館、本宮高校体育館で熱戦が繰り広げられた。

男子の部では、高校3冠を獲得した横浜商工のメンバーを中心とした渡辺組が、若さのスピードプレーで他を圧倒し、初優勝を飾った。また、元日本代表の木浪（中村荷役）、元ＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬの荒尾を擁する青商クラブも有力と見られたが、渡辺組がスローオフからの早い攻めと、百戦錬磨のゲーム運びで、青商クラブを後半の一気の攻めで下した。

女子の部では、日立栃木ＯＧのオレンジクラブが、そのキャリア、実力を発揮し危なげなく初優勝を飾った。

１回戦敗者で行われる本宮町長杯は、男子が１回戦で渡辺組に敗れたＹＫＫクラブ、女子は萩江クラブが獲得した。


◀男子優勝　渡辺組


▶女子優勝　オレンジクラブ

試合結果

【男子】

◆会長杯トーナメント

▼１回戦

渡辺組	27―18	ＹＫＫクラブ
ＨＣミリオン	22―16	三条クラブ
青商クラブ	26―20	蓮田クラブ
小金クラブ	27―19	柏崎クラブ
リリオ神奈川Ｇ	32―18	大曲ＯＢハンドボールクラブ
釧路湖陵クラブ	24―23	しなのクラブ
栃の葉クラブ	25―20	全郡山

▼２回戦

渡辺組	38―19	ＨＣミリオン
青商クラブ	27―11	学石クラブ
リリオ神奈川Ｇ	20―17	小金クラブ
釧路湖陵クラブ	24―16	栃の葉クラブ

▼準決勝

渡辺組	25―18	青商クラブ
釧路湖陵クラブ	24―15	リリオ神奈川Ｇ

▼決勝

渡辺組	36―18	釧路湖陵クラブ

■最終順位

①渡辺組　②釧路湖陵クラブ　③青商クラブ
③リリオ神奈川Ｇ

◆町長杯トーナメント

▼１回戦

ＹＫＫクラブ	24―22	三条クラブ
新鮮組	27―20	蓮田クラブ
柏崎クラブ	30―19	大曲ＯＢハンドボールクラブ
しなのクラブ	25―19	全郡山

▼準決勝

ＹＫＫクラブ	25―20	新鮮組
しなのクラブ	29―19	柏崎クラブ

▼決勝

ＹＫＫクラブ	31―25	しなのクラブ

【女子】

◆会長杯トーナメント

▼１回戦

氷見クラブ	18―10	かぶら女子ハンドボールクラブ
ガビアーノ・チップス	22―14	萩江クラブ
月寒クラブ	15―14	本宮クラブ
オレンジクラブ	16―12	べにばなクラブ

▼準決勝

ガビアーノ・チップス	15―13	氷見クラブ
オレンジクラブ	23―13	月寒クラブ

▼決勝

オレンジクラブ	21―10	ガビアーノ・チップス

■最終順位

①オレンジクラブ　②ガビアーノ・チップス
③月寒クラブ　③氷見クラブ

◆町長杯トーナメント

▼１回戦

萩江クラブ	21―20	かぶら女子ハンドボールクラブ
本宮クラブ	20―17	べにばなクラブ

▼決勝

萩江クラブ	22―10	本宮クラブ

第21回全国クラブ選手権大会西地区大会

男子・清商クラブ
女子・ソニーセミコンダクタ九州がともに初優勝

第21回全国クラブ選手権大会西地区大会は、７月20日から22日まで、高知市総合運動場多目的ドームで開催された。

男子の部は、予選リーグ決勝トーナメント方式で行われた。予選リーグを快調に勝ちぬいた清商クラブは、決勝で２回目の優勝を目指すＡＣウィンズを１点差で下し、初優勝を飾った。

女子の部はトーナメント方式で争われ、ソニーセミコンダクタ九州が、快進撃で勝ち上がり、決勝では長崎クラブを19—13で下し、初優勝を飾った。

試合結果

【男子】

◆予選リーグ

▼Ａブロック

ＡＣウィンズ	14—9	正強ＯＢクラブ
ＡＣウィンズ	18—17	下松クラブⅡ
下松クラブⅡ	24—14	正強ＯＢクラブ

▼Ｂブロック

西宮東クラブ	17—10	久留米クラブ
西宮東クラブ	22—8	南クラブ
久留米クラブ	20—10	南クラブ

▼Ｃブロック

中央クラブ	20—14	宮崎フェニックス
中央クラブ	12—12	チームＹＡＳＵ
宮崎フェニックス	15—12	チームＹＡＳＵ

▼Ｄブロック

清商クラブ	20—10	那賀クラブ
清商クラブ	22—8	天城クラブ
那賀クラブ	18—14	天城クラブ

◆順位決定戦

正強ＯＢクラブ	18—15	南クラブ
チームＹＡＳＵ	15—10	天城クラブ
久留米クラブ	24—17	下松クラブⅡ
那賀クラブ	19—15	宮崎フェニックス

◆準決勝

ＡＣウィンズ	18—11	西宮東クラブ
清商クラブ	12—11	中央クラブ

◆３位決定戦

中央クラブ	24—22	西宮東クラブ

◆決勝

清商クラブ	13—12	ＡＣウィンズ

■最終順位

①清商クラブ　②ＡＣウィンズ　③中央クラブ　④西宮東クラブ　⑤久留米クラブ　⑤那賀クラブ　⑦下松クラブⅡ　⑦宮崎フェニックス　⑨正強ＯＢクラブ　⑨チームＹＡＳＵ　⑪南クラブ　⑪天城クラブ

【女子】

◆１回戦

ソニーセミコンダクタ九州	27—4	黒潮クラブ
岡山県立大学クラブ	24—16	ＲＵＮＲＵＮＳ
長崎クラブ	17—10	ポストクラブ
香川レディース	15—10	古都クラブ

◆７・８位決定戦

古都クラブ	16—11	黒潮クラブ

◆５・６位決定戦

ＲＵＮＲＵＮＳ	17—9	黒潮クラブ

◆準決勝

ソニーセミコンダクタ九州	21—10	岡山県立大学クラブ
長崎クラブ	19—16	香川レディース

◆３位決定戦

岡山県立大学クラブ	18—9	香川レディース

◆決勝

ソニーセミコンダクタ九州	19—13	長崎クラブ

■最終順位

①ソニーセミコンダクタ九州　②長崎クラブ　③岡山県立大学クラブ　④香川レディース　⑤ポストクラブ　⑥ＲＵＮＲＵＮＳ　⑦古都クラブ

連載16

NTS2001推進にあたって

NTS運営委員会副委員長　関　健三

昨年よりスタートしたＮＴＳは多くの関係者の皆様より絶大なるご支援を頂きほぼ計画どおり実施することができました。

本年度もＮＴＳ2001を推進するにあたりブロックトレーニングのスケジュールと開催要項を掲載いたします。

つきましては、ハンドボール関係者の益々のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ナショナルトレーニングシステム（NTS）ブロック実施スケジュール

次のスケジュールは、目安として提示します。全てのトレーニングを実施しなくても構いません。

スケジュール

	小学生	中学生	高校生	指導者
13：00 13：30 16：30			受付 ウォーミングアップ 体力測定 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング シュートコントロール ［女子］［男子］	受付 トレーニング見学 指導方法の把握 指導ポイントの検討 トレーニングのヒント抽出
18：00			夕食	夕食
	小学生	中学生	高校生	指導者
9：00 9：30	受付 ウォーミングアップ 体力測定 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング シュートコントロール ［　］［小全］	受付 ウォーミングアップ 体力測定 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング シュートコントロール ［中全］［　］	ウォーミングアップ Man―Man グループ戦術 ゲーム ［男子］［女子］	トレーニング見学 指導方法の把握 指導ポイントの検討 トレーニングのヒント抽出
12：00	rest＆昼食 栄養・ウェイトＴＲなど	rest＆昼食 栄養・ウェイトＴＲなど	rest＆昼食 栄養・ウェイトＴＲなど	rest＆昼食 栄養・ウェイトＴＲなど
13：30 15：30 16：00 16：30	Man―Man グループ戦術 ゲーム ゲーム ゲーム小学生 ［小全］	Man―Man グループ戦術 ゲーム ゲーム中学生 ゲーム ［中全］	ゲーム高校生 ゲーム ゲーム ［高全］	トレーニング見学 指導方法の把握 指導ポイントの検討 トレーニングのヒント抽出
17：00	アンケート	アンケート	アンケート	アンケート
17：30 18：00 18：30	・ＮＴＳセンタートレーニングに推薦する選手選考について（ブロックごとの推薦選手数確認） ・終了後反省会（ＮＴＳコーチ・ブロック＆県技術委員） ・運動能力テスト用紙・アンケートを回収し、日本協会に送付する。 ・実施報告書（推薦選手含む）・費用精算書を作成し、日本協会に送付する。			

＊ゲームをする場合、同じ学校のものが、同チームにならないようにすること。

NTS2001ブロックトレーニングプログラム

「実施上の留意点」

1、インストラクター用ＶＴＲ・強化指導教本（ＶＴＲ・教本は8月20日までに送付する）を熟読のこと。
2、プログラムは下表のとおり全てを実施する必要はない。（できるまでするのではなく、上達の切掛けにさせる。）
3、指導スタッフは、リーダー（コーディネーターかインストラクター）の指示にしたがって、デモンストレーターが各選手に直接指導すること。
4、無理をさせないこと。威圧しないこと。特に小学生には注意する。
5、説明は、簡潔に短くしプレーを多くさせること
6、体力測定は、手分けして効率良く実施すること。
7、休憩・水分補給をこまめに実施すること。

体力測定は全て実施。○印は原則的に実施する。全て実施できなくても構わない。

カテゴリー	トレーニング内容	時間	用具等	小学生	中学生	高校生
体力測定　走　力	30ｍ sprint(秒)		ストップウォッチ3～4個	◎	◎	◎
跳躍力	5 step jump(ｍ)		メジャー2～4	◎	◎	◎
投　力	長座スロー(ｍ)	30～40分	ラインテープ	◎	◎	◎
背筋力	背筋力計(kg)		背筋力計・握力計	◎	◎	◎
握　力	握力計(kg)		個人記録用紙	◎	◎	◎
ウォーミングアップ	足踏みゲーム		コーン	○		
	パスゲーム	各５分	カラーベスト		○	
	しっぽ取りゲーム					○
コーディネーション	リズムドリブル		コーン	○		
	トス＆パス		カラーベスト		○	
	スリーメントス＆パス	15分程度	1人に２ボール			○
	自由自在			○	○	
	ムカデゲーム			○	○	
	キャッチングフォーム			○		
ボディーコントロール（ディフェンス）	基本ステップによる追いかけっこ				○	
	基本ステップによる状況判断	10分程度		○	○	○
	フェイント・シュートに対するコンタクト				○	○
パスコントロール	“あっち向いてホイ”パス		コーン	○		
	５人１組ビジョンケア		カラーベスト	○		
	スタンディング・ショルダーパス			○	○	
	アシストパス			○	○	○
	２対２＋Ｌフリーマンパスゲーム	10～20分程度			○	○
	コンタクトパス、ラテラルパス				○	○
	スクエアパス(ノーマルパス)				○	○
	スクエアパス(ノーモーションパス)				○	○
	スクエアランニングパス				○	○
シュートコントロール	基本的なシュートトレーニング		コーン	○	○	
	(フリーシュート＆１対１でのシュート)		カラーベスト	○	○	
	サイドシュート			○	○	
	ポストシュート	30分程度		○	○	
	ブラインドシュート				○	○
	シュートの打ち分け				○	○
	ステップチェンジシュート				○	○

カテゴリー	トレーニング内容	時間	用具等	小学生	中学生	高校生
Man―Man	フェイント	10分程度	コーン カラーベスト	○		
	(シュート・ステップ・スイング・ローリング・ジャンプ)			○		
	1対1のゲーム			○	○	
	複合フェイント				○	○
	(シュート・ステップ・スイング・ローリング・ジャンプ)				○	○
グループ戦術 (速攻のオフェンス)	ランパス:without dribble	20分程度	コーン カラーベスト	○	○	○
	クロスランパス:without dribble			○	○	○
	①2対2→2対1の速攻:without dribble			○	○	○
	ワンパス速攻MIX(速攻における哲学)			○	○	○
	①3対3・4対4の連続速攻(3点先取)				○	○
(速攻の ディフェンス)	TAKE ONE			○	○	○
	フロントチェック&バックチェック				○	○
グループ戦術 (オフェンス)	3対3パラレル	30分程度	コーン カラーベスト	○	○	
	3対3センタークロス			○	○	
	3対3ブロックからスルー				○	○
	3対3ブロックを使ったパス&ラン				○	○
	3対3ブロックからスルー				○	○
	4対4基本的なオフェンス(パラレル)					○
	4対4基本的なオフェンス(クロス)					○
	4対4ダブルポストからのポストシュート					○
	4対4ダブルブロックから視野外ロングシュート					○
ゴールキーパー	ボールを目で追うトレーニング	30分程度	コーン	○	○	
	反応トレーニング			○	○	
	クロースシュート(近距離)に対するトレーニング			○	○	
	ボールピックアップトレーニング			○	○	
	ポジショニング+セービングトレーニング			○	○	○
	ボールコントロール+パスアウトトレーニング			○	○	○
	複合トレーニング①				○	○
	複合トレーニング②				○	○

小学生チーム活動特集 その9

小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

■安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）

① 団体名・指導者名

安居ブルーサンダースポーツ少年団

監督　松山定裕・多田美香

コーチ　佐藤卓也・上田美幸・山村恵子

② 団員数（5月1日現在　男子18名・女子8名　計26名）

6年　男子6名・女子4名　5年　男子1名・女子1名

4年　男子6名・女子2名　3年　男子4名

2年　男子1名・女子1名

③ 団体発足の経緯

1996年4月に、男子部員15名で結成され、現在6年目を迎えた。小学校のハンドボール所属の子供達が、教員の異動によりクラブとしての存続が危ぶまれた。しかし、子供達とチームを支える親の熱意に答え、地域のハンドボール指導経験のある方が、心よく引き受けてくださった。また、1997年には女子チームも発足し、ますます活気が溢れてきた。発足当時は、練習場所がなく、スポーツ少年団として登録したことで、市の体育館使用が許可された。だが、体育館にはゴールがなく、ゴール確保（古いゴールを譲り受け父兄がペンキ塗り）、毎月、月始め体育館許可申請と部員保護者が、協力して子供達の環境づくりにつとめた。監督・コーチの熱心な指導に、子供達・保護者とが三位一体となり励んでいる。昨年は、全国大会ベスト8（男子）に入り、卒業生も中学・高校で活躍している。

④ 指導にあたって特に留意されている事項

ハンドボール大国、福井県の土台となる、小学生クラブチーム。特に礼儀・チームワーク・集中力をモットーとし、ハンドボールを楽しみ、好きになり、小学生だけでなく、生涯ハンドボールに関わっていける子供達を育成していきたい。時には優しく指導しながら日頃の練習に励んでいる。その中で、成長していく子供達に夢と感動をより多く体験してもらいたい。

⑤ 団員数確保への具体的な取り組み事項

小さな地区で、全校生徒が243名。男子はソフトボール、女子はフットベースボールがある。その中で部員を確保することは年々難しくなってきている。部員が小学生のいる家にチラシを配ったり、直接声をかけたりと子供達が頑張っている。

⑥ 地域社会・学校との連携やかかわり方について

安居ブルーサンダーは地区を基点として活動している。小さな地区ではあるが、いかに子供達にハンドボールに興味を持ってもらうかを考えている。ブルーサンダーという名前は、福井県で唯一の日本リーグ一部の北陸電力ブルーサンダーから頂いたチーム名。将来子供達が日本リーグの選手になることを夢みてもらうことを期待してつけた。

安居小学校は中学校と併設のため、学校体育館がひとつしかない。中学校の部活もあり体育館を使用することは難しいことだが、学校の協力もあって、週3日練習している。時には中学校との合同練習も行い、ＯＢの子供達が時間の許す限り練習に顔をだしてくれ、その保護者の方々のご支援とご協力のもと頑張っている。

⑦ ある日の練習メニュー

練習日　毎週月曜日・土曜日・日曜日

体操・ランニング・ストレッチ・ボールコントロール・キャッチボール

ジャンプパス・遠投・各ポジションシュート・速攻・1対1・3対3・6対6・練習ゲーム

⑧ 他の団体指導者への助言

特にないが、できる範囲の交流試合をたくさんやりたいと思っている。

⑨ その他・今後の目標

北信越では、常に全国でも上位入賞している富山チームを目標として、いつかはブルーサンダーも夢の頂点に立ちたいと思っている。



主将の涙に見た成長の跡

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

広島アジア大会の開催を記念して翌95年からスタートしたヒロシマ国際ハンドボール大会。今年も７月下旬に開かれた。今回で７回目を迎えたが、今回は女子の４チームが参加した。中国から安徽省女子手球隊、韓国から実業団の強豪・光州市庁、そして日本からは日本代表とＵ－23日本代表。

特に日本代表は12月の世界選手権（イタリア）へ向けての腕試しの戦いだった。しかし世界の壁の厚さをまざまざと痛感させられた感が強い。

５月の東アジア大会では韓国に前半リードするなど善戦、２位になっているだけに期待されたが、肝心なところで若さを暴露、完敗だった。

光州市庁は現役代表３人、前代表も２人いる韓国では強豪だけに、日本代表とすればどこまで通用するか格好の相手だった。ところが歴然としたのはキャリアの差。前半２点差で折り返し、後半は金城ら若い力で追い上げたが、終盤には頼みの守りが崩れてしまい、そのまま寄り切られた。

今回、日本の団長をつとめた西窪勝広オムロン監督は戦いを冷静に振り返った。

「今回参加して改めて、日本代表の力を知ったことはプラスだった。韓国のチームと比較すると日本は若い。肝心なところでミスが出る。こういった点をこれから修正しなくてはいけない」

この若さが世界のひのき舞台までに、どれだけ差を詰められるかが、２大会連続して予選リーグで敗退している日本にとっては、今回の合言葉は「予選リーグ突破」であることは明らかだ。

光州市庁に敗れたあと控え室に戻った日本代表の主将・青戸あかねは、思わず悔し涙を流した。優秀選手賞を受賞したにもかかわらず…。

「勝負どころでの踏ん張りができなかった。」世界の厳しい舞台を知っているのは、このメンバーでは青戸とデンマーク・スコウバッケンに行っている田中美音子の二人だけ。

それだけに青戸には、この若いメンバーを積極的にリードしなくてはの思いが強かったのだろう。特に日頃の合宿では、一人しかいないとの状況もあるだけになおさらである。

エースの期待がかかる金城にしろ、将来が嘱望されている19歳の谷口にしろ、まだまだ肝心なところで多くの結果を求めるのは無理である。その点を青戸は充分承知しているだけに、いっそう悔しさとむなしさがこみあげてきたのだろう。青戸は今大会、持ち前の闘志をさらにむき出しにした。ゴールをねらうだけでなく、アシストにも大きく貢献した。「青戸は変わったなあ。うまくなった」の声が聞かれることも、そのプレーを裏付ける。

「世界を知っている私が若い選手を引っ張らなければいけないのに、自分の力が足りなかった」。こうした言葉こそ精神的にも大きく成長した主将としての涙であった。この気持ちが必ず日本代表を押し上げるパワーになるはずだ。若手に涙がどう映ったか。そこが今後を左右するのではなかろうか。

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

さて、今回登場いただく方は…

漆畑　宏至 さん

(昭和12年５月31日生)



静岡県出身。静岡県立清水東高等学校でハンドボールをはじめ、全国高校選手権に３度出場。明治大学に進学。４年次は主将として関東学生春季リーグ戦を制し、同年西宮市で行なわれた全日本学生選手権では準優勝。卒業後は東洋工業〈現・マツダ㈱〉入社。第１回社会人大会で３位。国体などでも活躍した。現在㈱ジャパンビバレッジ顧問。明治大学ハンドボール部ＯＢ・駿台ハンドボールクラブ幹事長を務め後輩達に温かい視線を注がれている。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

昭和28年、高校進学当時、スポーツの人気は甲子園・神宮に代表される野球がその頂点で、他はほとんど横一線でした。しかし今でも各地に見られるように、その土地、土地で大変盛んに行なわれているスポーツがあります。私の故郷静岡では、野球は静岡（静高・静商）が圧倒的に強く、水泳は浜松、サッカーは藤枝、ハンドボールは清水（清水東・清商）と色分けされ、盛んに行なわれていました。最近は清水といえばサッカーの町として有名ですが、戦前から大変に盛んなハンドボールの町です。従って、高校入学時に人気のある野球を取るか、練習は厳しいが優勝を狙えるハンドボールを取るか大変に迷いましたが、最後は父のアドバイスもあり、県大会で優勝が狙え、全国大会に出場可能なハンドボール少年になった次第です。

ハンドボールを通して、忘れられない思い出は何ですか。

昭和34年７月、西宮市において、第２回全日本学生ハンドボール選手権が開かれました。連日35度を越す猛暑の中、次々と強豪を薙ぎ倒し、あれよあれよという間に決勝まで勝ち進みました。決勝の相手は春季リーグで同率優勝の芝浦工大。結果は残念ながら力尽き、準優勝に甘んじましたが、記念すべきはこの試合、ハンドボールの試合が初めてテレビで放映されたことです。テレビに映るなどということは全く考えられない時代でしたから皆舞い上がっていました。実家では近所の人を集めて大騒ぎだったとか。後で聞いた話ですが、当時のテレビはブラウン管も小さく、白黒テレビで、その上紫紺のユニホームに真っ黒な顔をした選手が動き回っているだけで誰が誰だかわからず、背番号でやっと我が子を探し興奮していたそうです。

卒業後は広島ですね。国際大会も行なわれる盛んな地域ですが。

今でも大切に保管していますが、大学卒業と同時に日本協会から公認審判員の資格をもらい就職先の広島へ向かいました。広島は熱狂的な野球とサッカーの町で、ハンドボールは全くのマイナースポーツでした。着任後、しばらくして教育委員会から「ハンドボールの普及の為、関係者を指導して欲しい」との要請があり、県下の小中学校・高校の先生、大学のクラブの生徒などを集めて指導したことがありました。その中に、大柄な、現日本協会常務理事の市原さんが含まれていたことを今でも思い出します。朝鮮特需後の昭和30年代、「もはや戦後ではない」と言われ、人々の生活もようやく安定してきていました。しかし戦後のベビーブームも重なって、小中学校は依然として一クラス50名強のすし詰め状態、その上スポーツ用具も十分にゆきわたらない環境でしたから、ボール１個で体育の授業が出来るハンドボールに目をつけ奨励したのではないかと想像されます。従って、高度経済成長のテンポがもう少し緩やかだったらハンドボール人口も随分違っていただろうと残念に思っています。

今の日本ハンドボール界にご提言をお願いしたいのですが。

先般、市原さんにお会いする機会があり、昔話に花を咲かせました。その時にこれからのハンドボール界に意見を求められましたので、近々明治・慶應・早稲田の三大学定期戦があるので、各校の主だったＯＢに意見を聞いてみてはどうかということで、当日出席をお願いしました。その折、ＯＢ諸兄より二点貴重な意見が出ました。リーグ一部、二部に関係無く広く意見を求め、親交を持てる場を作るべきではないか。それと各大学が色々な形で行っている定期戦を、お互いの親交の為に一度に一会場で開催できないだろうか。いずれもハンドボール界発展の為には貴重な意見だと思います。このようなアイデアを、是非協会が積極的にリーダーシップをとって取りまとめていっていただきたいと思います。発展には時間がかかるでしょうが、皆で力を合わせて結束すれば必ずよい方向に進むはずです。

漆畑さん、ありがとうございました。次号もお楽しみに。

パッシブプレーの評価に関するルール解釈について その3

PRC マンフレート・プラウゼ
CCM ディートリヒ・シュペーテ
翻訳 清水宣雄
光島磯雄

3. 予告シグナルを出すための観察と判断の基準

図6と**図7**に、レフェリーがパッシブプレーの評価をする際に役立つように、プレーの局面に沿ってプレー、観察と判断の基準を描き出した。プレーの中で、何度も起こる標準化された状況で、レフェリーが予告シグナルを出す必要のある、特徴的なタイプのプレーや行動の主な観察について述べてある。ここでは、レフェリーが、一つ一つの積み重ねとして(累積効果！)、パッシブプレーの徴候を評価できるようになったことも重要である。非常にゆっくりと位置取りをしながら、ボールを回そうとするチームは、早いペースで行うチームと、区別して判断されるべきである。

これは、パッシブプレーの評価に関する、２番目に重要な問題である。

予告シグナルを出した後、何時パッシブプレーの判定を下すべきなのか？

最初に、レフェリーは予告シグナルを出すことの、インフォメーションという意味を理解しなければならない。正確な手順（**図9**）を試験してみよう。

①コートレフェリーがパッシブプレーの予告シグナルとして手を挙げる。
②ゴールレフェリーは、これを見て同じようにシグナルを出す。これは概して時間がかかる！
③全てのプレーヤー（コーチも）が、このシグナルに気付かなければならない。プレーが進行する間、ここでも時間がかかる！

コートレフェリーが予告シグナルを出した時でなく、この時からシグナルによって急かされたチームの「反応」が始まる。レフェリーは、何時パッシブプレーの判定を下すべきか？ **図8**では、一つ一つの積み重ねとして、４つの中心的な判断基準を示した。

①５秒以上の組立の局面

予告シグナルが出されたとき、ボールを失うことを恐れるプレーヤーは直ぐにプレーのペースを早めようとしなければならないし、同様に仕掛ける動き（戦術的攻撃行動、１対１の活動等）をしなければならない。攻撃側には、前に述べた「反応時間」は保証されるべきであり、まず全てのプレーヤーが、予告シグナルに気付かなければならない。それに加えて、チームも観客にアピールするような攻撃的な活動を始めるオプションを持つべきである。ルールの精神は、観客に魅力のない、突進するタイプのプレーに走ることをチームに認めていない。良いチームは５秒以内に攻撃を始めることができるポジションに着くべきである。もちろん、まだ低いレベルのレフェリーは、このような状況に対応できるように、状況を知る直感力と修正力を養わなければならない。

②攻撃側が、ゴールを狙う動きやペースの明確な変化に成功しなかった場合

頻繁に起こることではあるが、ペースの明確な変化もなしに、二人のプレーヤーの間で何度もパスが繰り返される、一方から他方へ、あるいは、左から右へと全てのポジションをボールが１回以上回される！

注目：ここでもう一度時間の制限が、レフェリーの目安となる。ルール上この５秒が過ぎる前に、パッシブプレーの判定を下すべきではない。高いレベルのハンドボールでは一般的に、ポジションへ１回ボールを回し、この「反応時間」で、攻撃を仕掛けるのに充分である。

③活動的な防御がペースの明確な変化を防いだ場合

既に何度も述べているが、チームが積極的な防御活動(パスや走りのコースを塞ぐ、攻撃側を相手コートに押し戻す、相手の自陣深くにパスをさせる）を仕掛けた場合、攻撃側が対応できなければ、レフェリーは、この種の活動を評価すべきである。

④攻撃側が攻撃の仕掛けに成功しなかった場合

攻撃側がフィニッシュの局面に入ったならば、レフェリーは攻撃の仕掛け（１対１、戦術的攻撃）が、ゴールを狙っているか、十分に注意して観察しなければならない。１対１の攻撃が、地域的な有利を得ることを目指さず、単にフリースロー（攻撃プレーヤーが自ら止まる）を取るためだけの場合には、パッシブプレーであると直ぐに判断するべきである！

注目：これらの４つの状況がプレーにおいて、単独で現れることは稀なので、ルール上、ひとまとめに考えられている。

状況：フリースローの判定が繰り返される場合

今まで観察と判定の基準を述べてきたけれども、予告シグナルが出された後で、フリースローの判定が繰り返される問題が残っている。一般的に、予告シグナルを出された

チームは、中断の後でまず組立の機会を与えられなければならない。ここで攻撃側を罰することはできない。なぜならば、反則を犯しているのは防御側であるからである。

ルール7条の10改正のための提言

①予告シグナルの出し方

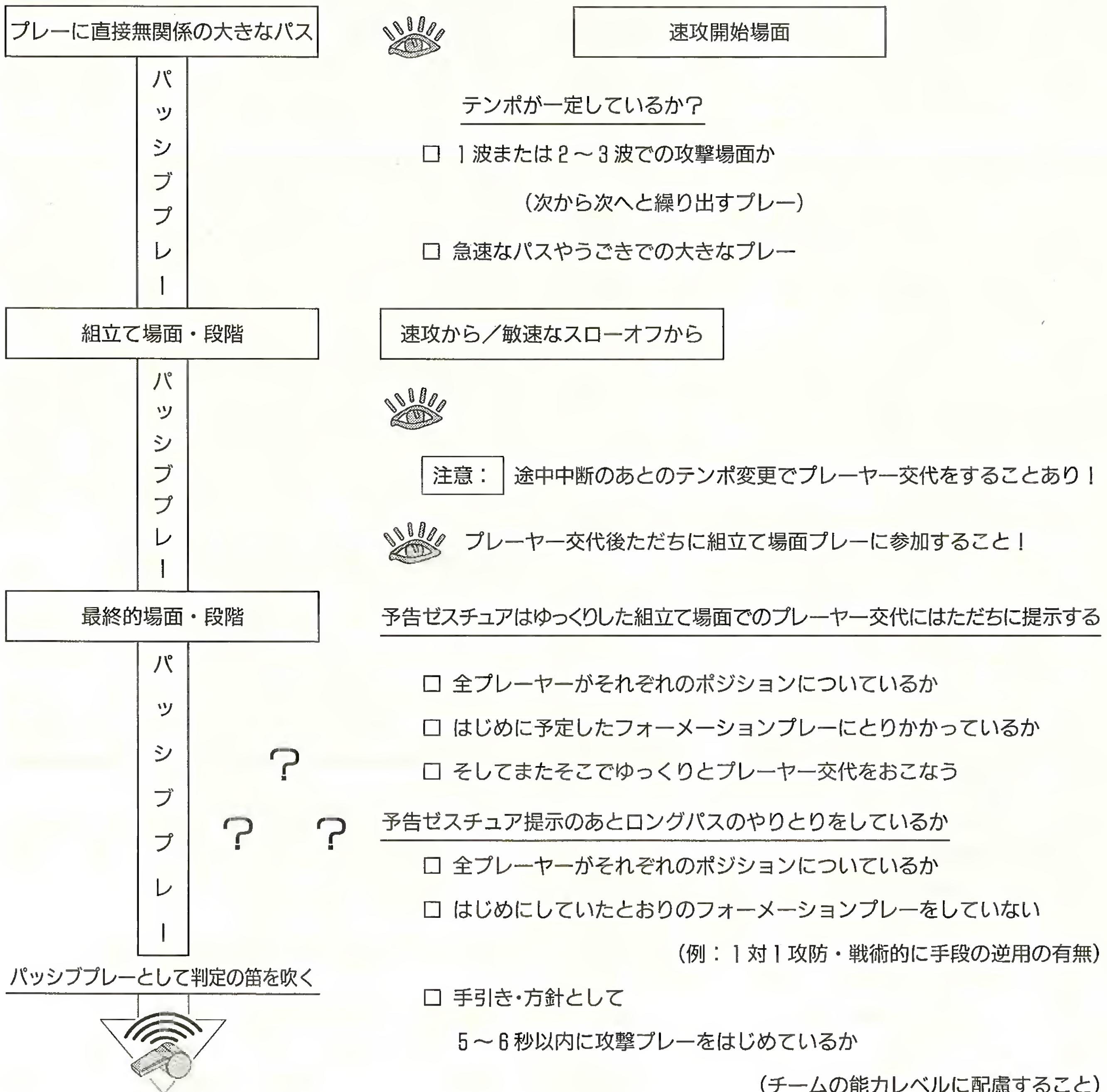
活動的なレフェリーや観察評価者からのレポートと同じように、経験が示すことは、予告シグナルの適用を統一するために、今後ゴールレフェリーが先に、パッシブプレーの予告シグナルを出すことが認められることが望ましいということである。

ルール上、コートレフェリーはゲーム中の出来事を観察するのが忙しすぎて、パッシブプレーの徴候を認識するのが遅れがちである。しばしば、「見かねた」ゴールレフェリーが二人の間で合意された補助的なシグナルで、パートナーにパッシブプレーを促そうとすることがある。

7条は以下のように変更されるべきである：

一方のレフェリーがパッシブプレーの傾向を認めたなら、ゴールを狙う姿勢が見られないことを、手を挙げること(ジェスチャー19) で示す。もう片方のレフェリーが同じシグナルを出す。該当のチームにゴールを狙う姿勢が見られな

図6-1　予告ゼスチュアを提示するための観察と判定の参考パターン(Ⅰ)



い（レフェリーにとって）場合には、二人のうちの一人が、パッシブプレーの笛を吹く。

②自陣へのバックパス

フリースローやスローインの状況で、しばしば味方にパスできるにも関わらず、センターラインを越して、自陣にボールを戻すチームがある。このような行為でボールを失わせることにすれば、パッシブプレーの判定に関する、新しい客観的な基準を定めることになる。

③予告シグナルを出した後に関するルール変更の提案

ノルウェーの女子世界選手権において、ＰＲＣは、予告シグナルを出した後に、レフェリーは何時、パッシブプレーの判定をするべきかについて、指名されたレフェリーと議論を行った。レフェリーの立場から、次の二つの変更が提案された。

1．レフェリーが予告シグナルを出した後、攻撃チームには、僅か１回のシュートの機会しか認めない。このシュートで得点できなかったときには、レフェリーはパッシブプレーの判定をしなければならない。攻撃チームが、直接リバウンドボールを拾った場合は例外とされ、もう一度シュートが認められるが、チームメイトへのパスは認めない。

2．パッシブプレーの状況（既に予告シグナルが出ている）で、攻撃チームがゴールにシュートしたならば、パッシブプレーは終了し、「新しい」攻撃が始まる。

図6-2　予告ゼスチュア提示のための観察・判定参考パターン（II）

スローオフから



スローの実施をおくらせていないか？

□ ボールをほうりだしたままでいる／ボールを下におこうとしない（ひろおうとしない）

□ だれもセンターライン（スローオフ地点）へいこうとしない

□ プレーヤー交代で時間をかせごうとする

ボールまわしプレーから



ボールまわしをゆっくりする

□ 歩きながら（走らずに）ボールをプレーする

□ プレーヤー交代を強行する



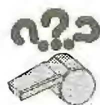
予告ゼスチュア ═══ →→→シュートプレーに直接関係しないロングパスをくりかえしながらプレーヤー交代をおこなう

□ 何人かのプレーヤーが先にセンターラインを越してしまう

□ プレーヤー交代がおわるまで待つ

□ その場でうごかずにドリブルをくりかえす

□ ボールを自コートに向けてセンターライン越しにもどす



予告ゼスチュア ═══ →→→組立て場面・段階中にプレーヤー交代をゆっくりやっている状態ではただちに提示すること

□ 全プレーヤーがそれぞれのポジションについているか

□ そのチームの習慣フォーメーションどおりのパスプレーをはじめるか

□ そこでゆっくりとプレーヤー交代をはじめていないか



予告ゼスチュアが出されたあともなおロングパスをやりとりしていないか

□ 全プレーヤーがそれぞれのポジションについているか

□ そのチームの習慣フォーメーションどおりでないパスまわしをはじめているか
（1対1攻防・戦術的に手段を逆用の有無）

□ 手引き・方針として：すくなくとも6～8秒には攻撃プレーをはじめているか
（チームの能力レベルに配慮すること）

図7 予告ゼスチュア提示についての観察と判定基準パターン（II）

最終場面・段階

パッシブプレー

最終場面・段階

パッシブプレー

最終場面・段階

パッシブプレー判定でボールの保持が変わる

攻撃側の失策があっても続行可能の場合

注意：

攻撃側の不手際のあとでも
再組立ては可能！

- □ 行動プレー再開ポジションを再編成する
- □ それまでどおりのパスプレー

攻撃側の失策後中断になったとき

フリースロー実施を
ゆっくりしていないか

- □ ボールを放り出したままにしていないか
- □ 注意：それまでどおりのパスプレーは可能である！
- □ 意識的に違う地点に立とうとする

失策や不手際プレーのあと再組立て（やりなおし）に時間をかけすぎるとみれば予告ゼスチュアを出す

- □ 全プレーヤーがそれぞれのプレー再開のポジションにいるか
- □ それまでとちがうやりかたでパスプレーをしているか
- □ 攻勢・積極的な防衛動作で相手のテンポをくずす場面となっているか
- □手引き・方針として：５秒後（再編成にかかる時間）には確実にテンポが変わって本来の方法で最終場面・段階のプレーにすすむべきである（チームの能力レベルにも配慮すること）

図8　パッシブプレー予告ゼスチュア提示について

予告
ゼスチュア

重要：　攻撃側としてはプレーの最終場面・段階実現に努力をみせなければならない

その判定基準として：

- □ 明らかにプレーテンポを変えているか
  （1対1攻防・戦術的に逆用の有無）
- □ 防御側をそのポジションから引き寄せようとして
- □ 短いパスのくりかえしや短い組立て場面を展開しているか

!

パッシブプレーと判定するための基準

「笛」

1．組立て場面・段階が5秒以上かかっているか（チームの能力レベルに配慮すること！）

2．攻勢・積極的な防御は相手のテンポをくずすことである

—— パスコースや走るコースをブロック（阻む・さえぎる）する

—— パスを自コート後方やシュートプレーと直接関係のないところへ送る

立った姿勢のままパスのやりとりをする

3．攻撃側が本来のボールプレーをしていないということは

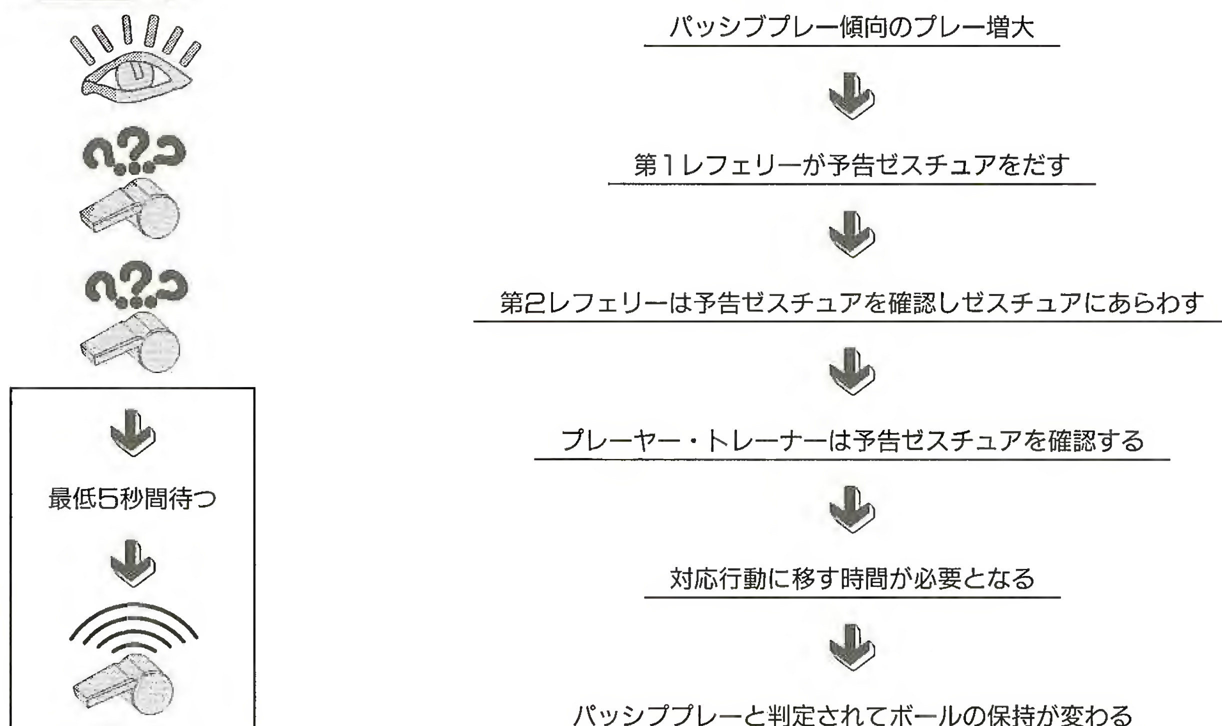
—— 防御側が基本的に防御ポジションを変えていない

—— 1対1攻防で地域を得るという有利状態になっていない

—— フリースロー判定を得ること（つかまれ、押され、突かれるようにして）で時間かせぎをする

パッシブプレーと判定する

図9　予告ゼスチュア提示後のパッシブプレーと判定することについて



トップレフェリー・日本リーグ担当レフェリー研修会

今回、ヒロシマ国際ハンドボール大会にあわせ、7月26日（木）～28日（土）の日程でトップレフェリー・日本リーグ担当レフェリー研修会が広島市の東区スポーツセンターで開催された。この研修会は審判員の資質向上と技術強化関係とのコミュニケーションを目的とし、審判員とチーム指導陣とが一堂に会し技術と反則について検討し合う場として、(財) 大崎企業スポーツ事業研究助成財団の助成を受けて行なわれた。斉藤実日本協会審判部長はじめ審判審査指導員、国内のトップレフェリー、そして湧永製薬酒巻監督や大同特殊鋼冨本監督などコーチ・トレーナー陣60名あまりが参加した。初日は座学として、トレーナー陣も交えての競技規則の研究や、国際的には8月より施行の新ルールの概要の解説、そして「外国人選手から審判員へ」というテーマで広島メイプルレッズの林五卿監督兼選手の講演などが行われ、2日目には湧永製薬・日新製鋼チームの協力を得て、実技研修とディスカッション、そして3日目には前日のヒロシマ国際のゲームを編集したビデオを用いて事例研究や討議が行なわれた。以下にその主な内容を記す。

7月26日 13：00～　座学

基調報告　斉藤審判長

(抜粋) 今いろいろな面で日本のハンドボールは変革を求められている。オリンピックや世界選手権に男女とも思うように出場が出来ていない。レフェリングとプレーの技術は表裏一体である。端的に言うと技術の高い国はレフェリーの技術も高く、レフェリングの高い国は技術も高いといえるのではないか。今、チーム指導陣も審判界も謙虚に反省しなければならない時が来ている。審判界では従来、選手や監督とあまり親しく話をするべきではないという指導がなされてきた。しかし、これからは互いに専門的分野に立った位置で論議を交わし、日本全体の技術アップを図らねばならない。そこで審判界は具体的行動として、**試合終了後、両チームの監督かコーチに感想を聞くこととする。**試合終了後は、お互いにフレンドシップを発揮し、互いの人格を尊重して、建設的な意見交換をするようにしていきたい。そのことが日本のハンドボールのレベルアップにかかせない要素であると考える。

昨年度各種大会の反省

欧州選手との意見交換会報告

外国選手から審判員へ　林五卿 (広島メイプルレッズ)

(抜粋)

・私達が韓国ナショナルで世界のトップを目指したときに考えたことは、体格で劣るアジアのチームが、ヨーロッパのチームに勝つには速攻しかないということである。しかし、相手の攻撃を終えてからの速攻は2次的な速攻にしかならない。一本で得点できる速攻を行うには相手にオーバーステップなどのミスをさせることである。しかし、それはレフェリー次第。日本にきて、イズミ（メイプルレッズ）でもそのようなハンドボールを目指してきているが、その日のレフェリーによって全然取られ方が違い、目指すハンドボールが徹底できない。

・日本のレフェリーのなかには、笛の音が小さい人が多いと感じる。また、短く切る笛のキレが悪い人も多い。笛の音は自信が無いから小さいの？と感じざるを得ない。

・ペアーで行うのがハンドボールのレフェリーだが、一人で吹いている人があまりにも多い。ハンドボール以外でも二人で色々なことを共有し、生活の部分まで理解し合えるのが理想だが、とにかく二人でもっと合わせて欲しい。

・ベンチのアピールで判定が変わってしまったことがあった。これは絶対にあってはいけないことであろう。

・とって欲しいと思う罰則をとれないレフェリーが多い。私個人は、相手がどうであれクリーンなハンドボールがモットーなのであるが、あまりにとれないレフェリーだと「こっちもやりなさい」と選手に言わざるを得ない。

・全般的に日本のレフェリーは努力を止めてしまう人が多い。ＢからＡを取って満足して努力を止めないで欲しい。

競技規則の研究

ペーパーテストを実施（公認審判員の筆記問題)。結果、Ａ級審判が平均80点以上の高得点、以下Ｂ級・コーチトレーナー・Ｃ級・Ｄ級という順になった。

新競技規則の研究

7月27日 10：00～　実技研修

ディスカッション（抜粋）

・ディフェンスプレーヤーがリバウンドボールを取ろうとしたら、自分はエリアの中。戻ってボールを処理した。ラインクロスか？

→選手の意見としてはラインと判定されても異論は無い。



審判側の意見としてはプレーオンというものも多かったが、結論としてラインクロスである。

・フリースロー実施の3mの許容について。ポイントの位置をレフェリーがはっきりと示せないためにやりなおしになっているケースが多く、チームとしては納得が出来ないことがある。

→走力の問題もあると思う。位置どり・見方の工夫をして、速やかにポイント指示が出来るよう努力する。

・サイドラインを割ってベンチ前に転がったボールを交代プレーヤーやチーム役員が投げて選手に渡したらレフェリーから注意を受けたが、いけないのか。

→いけないと指導している地域もあるようであるが、ルールにそれを禁じる記述は無い。後日協会から回答する。

[斉藤審判長]

ゴールレフェリーの活動量をふやせ。サイドラインを割ったかどうかも自信を持って判定できるように。モデルゲームを見てもわかる様に、選手は汗をかいている。レフェリーはどうか。汗をかくほど動いているか？

7月28日 10：00～
ビデオをもとに討論（抜粋）

・逆速攻となった。コートレフェリーからゴールレフェリーとなる方が、攻撃・防御プレイヤーと横並びになってしまい、罰則が見えなくなった。どのようにすればよいのか。

→ゴールインを判定するという任務を最優先するならやはり全力でゴールラインまで走ることが必要。そうでなければ、少しストップしてプレーを見やすい位置を取ることも出来る。ペアでの約束事も含め研究が必要。

・ディフェンスプレーヤーが視野の中に、ブロックしに来るオフェンスプレーヤーをすでに入れている。しかし結局そのプレイヤーのブロックをはずすことはできなかった。それでもブロッキングと判定されるか。

→チームとしては確かにはずすことが出来なかった選手のミスという見方も出来る。レフェリーとしては完全にブロッキングのプレーと認識。レフェリーはなかなか、そのディフェンスプレーヤーがあらかじめブロックするプレーヤーを視野に入れているかどうかは判断できない。レフェリーは研究が必要。（このビデオのケースは、プレーが完全にブロッキングの動作に値するので、ブロッキングと結論。）

[新競技規則に対しての質疑]

・ゴールキーパーがスローしようとして自ゴールにボールが入ったら自殺点か。

→自殺点ではない。新ルールではゴールキーパーがボールをコントロールした時点でゴールキーパースローとなるため、上のような場合は笛の合図でやり直しとなる。

・位置を取ったポストプレーヤーにボールが通るときどの程度の反則が新しい「明らかな得点のチャンス」を妨げたことになるのかがわかりづらい。

→基本的には従来どおりで、例えば、速攻時などで、パスを受け取る、あるいはリバウンドボールを取ることを誰も正しく防御できない状況で、身体に対して妨害行為を行いボールの保持を妨げる。今まではシュート体勢ではないのでフリースローとなっていた、それらアンフェアなプレーの排除を意図したのが新ルールである。今後事例を見て更に研究していく。

・新ルールでは3回目の退場で失格となったプレイヤーが競技再開前にスポーツマンシップに反する行為をした場合、更に2分の退場を加え4分間1名減となるとなっているが、すなわち1人のプレイヤーに4回の退場が記録されることになるのか。

→4度目の退場というのは存在しないと思われるので、上のようなケースでどのように記録するのかは今後競技部などと記録用紙も含め検討していく。



平成13年度第4回ハンドボール研究集会

ボール運動教材としてのハンドボール　その4

平成13年度第4回ハンドボール研究集会が、8月4、5日の2日間に神奈川県立体育センターにおいて開催されました。学校体育におけるハンドボールの授業のあり方について、講義・講演と研究発表が行われ、熱心な討議が繰り広げられました。以下にその概要を記します。

8月4日（土）

[開会式]

挨　　拶　（財）日本ハンドボール協会
学校体育検討委員会委員長　佐藤　靖
神奈川県ハンドボール協会会長　斎藤達也
趣旨説明　第4回研究集会実行委員会委員長　川邊孝夫
日程説明　第4回研究集会運営委員会委員長　石川泰弘

[講　演]

「これからの体育の授業づくりを考える　ハンドボールから〈かしこく、なかよく、元気よく〉に向けて発信する」
池田延行（東京学芸大学教授）

講演概要
①学校体育は時代とともにある
②各種審議会で問われた「不易と流行」
③これからの体育の授業づくり
④ハンドボールからの発信を期待して

[研究・実践報告]

①「高学年のハンドボール」
高橋るみ子（北上市立和賀西小学校）
②「ハンドボールの教材化に関する研究」
附田陽仁（野辺地町立野辺地小学校）
仲村　譲（奥山ボーリング株式会社）
③「ハンドボールの教材としての可能性を探る－戦術学習を中核とした授業づくり－」
信原悦治（岡山市立大野小学校）
④「遠投力の縦断的変化に関する報告－中1～高3のハンドボール投げ記録の変化－」
小山　浩（筑波大学附属中学校）

全国各地の教材としてのハンドボールに関する研究と実践の報告が行われました。

[授業実践]

「小学校中学年におけるバスケット型（侵入型・攻守混合型）のゲーム作り―ハンドボールにつながるゲーム作りの私案―」
松本格之祐（筑波大学附属小学校）

実技内容
①ボール操作技能を中心に　②ドッジボールとその発展
③ハンドボールの下位教材の検討
研究集会参加者を対象に参加者が実際に運動を行いました。

8月5日（日）

[授業提案]

「課題解決学習を目指したハンドボール学習」（高学年）
授業者：野原博人（川崎市立南生田小学校）
研究協力者：尾崎昭弘（同生田小学校）
「みんなで作ろう！ 楽しいハンドボール」（中学年）
授業者：関　恵美（川崎市立新城小学校）
研究協力者：荻原明恵（同南生田小学校）
堀川勝也（同南生田小学校）

[講　義]

「ボール運動教材としてのハンドボール」
岡出美則（筑波大学）

[閉会式]

挨　　拶　神奈川県ハンドボール協会副会長　佐分正典

授業提案スタッフより

2年間の授業研究の取り組みを終えて

関　恵美（川崎市立新城小学校）

昨年初めてこの研究集会に関わり、2年目の今年は中学年の授業をやらせていただいた。1年目の昨年は何もかもが初めてで、小学校の授業研究のメンバーも戸惑い、試行錯誤の連続だった。ミーティングを重ね、話し合ったことを実際に自分達のクラスで実践し、それをミーティングで報告する。これを繰り返し行い、全員で授業を練り上げていった。高校の先生方にもたくさんのアイディア、アドバイスを頂いた。

昨年はそれでもいくつかの課題を残して終りとなった。今年はその課題を引き継ぎ昨年以上のものをと、新しいメンバーを加え再スタートした。中学年は、昨年「投動作」に焦点を当て授業を組んだ。今年は子供たちと一緒にルールを作りながら、「全員が楽しめるハンドボール」を目指して授業を組み立てた。実際に学年の先生方に「ハンドボールの授業に取り組んでみませんか。」となげかけたところ、他の3クラス全てが取り組んでくれることになった。先生方は全員がハンドボールの経験がなく、多少不安はあったようだが、「クラス



の実態に合わせて、子供たちとルールを作りながらハンドボールをやっていってはどうですか？」の私の問いかけに応じて、早速実践してくださり4クラスがそれぞれのクラスカラーがでた授業となった。子供たちもハンドボールの時間をとても楽しみにしていたようで、3年生の実態に合った教材であったように感じた。

研究集会の当日は、諸事情でクラスの子供たちとは授業ができなかったため、スポーツ少年団の子供たちと一緒に授業を行った。初対面であるにもかかわらず、私の授業に本当によくついてきてくれた。そして活発に話し合いに参加し、のびのびとプレーしてくれた。子供たちには本当に感謝したい。

今回授業研究のメンバーの一員として取り組んできて、神奈川の高校の先生方を始め、様々な方々と一緒にこの研究集会を作りあげてこれたことは大変貴重な経験となった。そしてハンドボールを通じて全国の先生方と出会えることができた。これからも、子供たちと一緒にハンドボールの授業に取り組んでいきたい。

課題解決学習をめざしたハンドボール学習の実践を終えて

野原博人（川崎市立南生田小学校）

いろいろと悩むことも多かったが、学校体育でハンドボールを教材として扱うことの可能性と有益性を探りながらの実践を終えた。全国では、いろいろな実践が行われている。しかし、実際の教育現場でどれだけの先生方がハンドボールに興味を示し、教材として取り扱ってくれているだろうか。新指導要領では、各学年の内容に「学び方」が加えられ、課題解決学習がより一層重視されるようになっている。ハンドボールは、この課題解決学習を中心に子どもたちが思考をめぐらせ、ボール運動が苦手な子どもでも比較的活発に活動できるという特性がある。しかし、教育現場ではハンドボールについて興味を持っている先生方は少ない。

昨年から、ハンドボールに興味のある川崎市内の先生方が集まり、ハンドボールの特性について意見を出し合い、活動案を作り上げていった。ハンドボールの特性や今の子どもの実態を考えた上で、投球力の向上や戦術面の学習という技術的な面を重視した活動案となったが、教え込みの指導にならないよう注意する必要があった。どの種目のスポーツでも同じ事だと思うが、経験者はそのスポーツの奥深さや楽しさを子どもたちに伝えたいという気持ちが強くなってしまう傾向があり、この気持ちは私もよく分かる。しかし、小学校では、一部専科も入っているがほぼ全教科を教えることが現状であり、ハンドボールをより広く教育現場で取り扱ってほしいと考えると、どの先生が活動案や授業を見ても、「これならやってみたい」というものを作る必要があると感じた。

まだまだ、勉強不足な点もあるが、ボール運動が苦手と感じる子どもでも、楽しい活動になりやすい特性を大切にして、学校体育におけるハンドボールの教材化をこれからも追求していきたい。昨年（ティームティーチングではあったが）今年と2年続けて授業発表をし、学校体育におけるハンドボールの在り方について、私自身の考えを深めることができたことは、とても有意義なことだった。

※①今回の研究集会で授業提案を行った神奈川県ハンドボール協会授業研究グループが作成した、授業用ハンドボール資料集を無料で差し上げます（A4版、30頁）。ご希望の方は下記の住所まで返信用切手（160円分）を添えてお申し込みください。なおその際に、研究集会資料請求とお書き添えください。
〒232－0066
神奈川県横浜市南区六ツ川1－731
県立六ツ川高等学校　村山　明夫　宛
TEL 045－721－1434

※②ハンドボール研究第4号を作成するにあたり、ハンドボールに関する研究・授業実践報告を募集致します。詳細についてのお問い合わせは、下記の連絡先にお願い致します。
秋田大学教育文化学部　佐藤　靖　TEL 0188－89－2577

がんばれハンドボール10万人会情報

新会員の紹介（2001年7月に入会・更新された方々）

【北海道】
笹川賢俊
【青　森】
西村光子
【岩　手】
上川正二
【福　島】
菅野春恵
【茨　城】
伊藤明美
【千　葉】
吉田雄二
吉田桂子
樋口広子
川上律子
山形千里
【東　京】
安藤純光
【神奈川】
加藤良一
蒲谷裕正
【山　梨】
滝口　修
田辺和夫
【長　野】
山浦謙一
丸山洋子
【三　重】
野島智次
茅場　清
【大　阪】
田中幸二郎
宮崎　寛
前田保彦
西岡　弘
平松稔昭
佐々木昌弘
堀川美子
杉尾　哲
花野相三
繁田順子
川口裕史
山田憲一
平井一壽
工藤哲士
島田眞理
太田　均
金沢加代
岩本雅男
谷口賢次
西田　宏
長屋憲明
伊藤保仁
北川雄士
村井康容
小田文雄
井上博人
津田潤平
奥浜　清
赤星　明
土井秀和
【広　島】
北村厚子
中本和明
【山　口】
藤長美智子
【愛　媛】
海老原剛史
【福　岡】
池辺晴二
【宮　崎】
田村　司
鈴木　晃
指宿サヨ子

IHFニュース IHFニュース IHFニュース IHFニュース

2001女子世界選手権予選グループ決定

IHF競技運営委員会は、6月20日、Bolzanoにおいて、12月4日から16日にわたりイタリアで開かれる女子世界選手権のドローを行った。右の予選グループが決定した。

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
ウクライナ	ハンガリー	ロシア	ノルウェー
フランス	ルーマニア	ユーゴスラビア	スロベニア
デンマーク	スウェーデン	韓国	イタリア
オランダ	アンゴラ	日本	ブラジル
中国	コンゴ	オーストリア	ウルグアイ
マケドニア	スペイン	グリーンランド	チュニジア

2002年IHF総会はセントペテルブルグで開催

今度のIHF総会は、来年11月セントペテルブルグ（ロシア）で開催される。IHF評議会は、フランクフルト（ドイツ）での先の会議でこれを決定した。総会日取りは、IHFがロシアハンドボール連盟と調整して決める。

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



●HANDBALL FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

↓

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

↓

財源確保

↓

各種事業への活用と充実
- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

団結しよう！

ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

協会だより

平成13年度
第1回評議員会

[日　時]　平成13年6月23日（土）
　　　　　13：00～16：00
[場　所]　NTT麻布セミナーハウス
[出席者]
武田節夫（北海道）、斎藤　浩（青森）
谷藤勝美（岩手）、千田文彦（宮城、代理）
後藤義信（福島）、遠藤健次（埼玉）
滝口三郎（東京）、森川利昭（神奈川）
菊島哲也（山梨）、中山圭三（富山）
寺垣俊彦（石川）、庄司勝三（福井）
西村亮治（愛知）、中森一郎（三重、代理）
杉本真一（岐阜）、秋永昭治（滋賀）
小西博喜（京都）、東　嘉伸（大阪）
狩野幸介（兵庫）、中川敏文（奈良）
松原紀機（鳥取）、山本　一（広島）
増田雅夫（山口）、槙井俊明（香川）
柳原　勉（愛媛）、井　馨（熊本）
坂本　平（宮崎）、新垣　健（沖縄）
岩井正樹（実連）
中野利一（教職員、代理）
久保義雄（学連）
〈執行部出席者〉
山下副会長、大西専務理事
常務理事9名、監事3名、参事2名

冒頭、大西専務理事から日本協会の課題（財源問題、各連盟間の連携、協会の構造改革、日本リーグ）とスポーツ振興法に基づくハンドボール競技の育成（生涯スポーツ、競技力向上、地域との連携）について発言がなされ、続いて議事に入った。

議事

《決議事項》

1. 平成12年度決算報告並びに監査報告

平成12年度の決算報告（案）について以下の説明がなされた。収入の部では、アテネ特別強化委員会関連事業による変動が大きく影響し、予算額に対し増となった。支出の部では、アテネ特別強化委員会への特別会計繰り入れが大きな変動要因となり、当期支出合計が予算額に対して増となった。監事から、適正妥当であるとの監査報告がなされた。

以上、平成12年度決算は了承された。

2. 平成12年度事業報告

普及・指導に関する行事について説明がなされた。競技運営に関する事業について説明がなされた。平成13年度からのトスの方法が変更、退場者表示板の導入がなされた。国際に関する事業について説明がなされた。競技規則（審判）に関する事業について説明がなされた。昨年度レフェリーコースの後期欠席者は本年度の受講を認める。レフェリーのコート上の日本協会指定ユニホームを制定した。競技力の向上（強化）に関する事業についての説明がなされた。機関誌の発行に関する事業についての説明がなされた。企画・広報に関する事業についての説明がなされた。財務・会計に関する事業についての説明がなされた。日本リーグに関する事業の説明がなされた。総務に関する事業についての説明がなされた。

以上、平成12年度事業報告は了承された。

3. 平成13年度第一次補正予算

平成13年度第一次補正予算（案）について、アテネ特別強化委員会の予算が固まったことで、アテネ特別強化委員会とビーチハンドボール分の積立預金取り崩しで、当期収入合計を補正し、支出の部では、一貫指導体制、スポーツ医科学研究、アテネ特別強化委員会への特別会計へ繰り入れを補正したことの説明がなされた。

以上、平成13年度第一次補正予算は了承された。

4. 総務本部報告

平成13年度の（財）日本ハンドボール協会の執行部組織表及び、事務局組織・職務分担について説明がなされた。平成14年度以降登録金改定の件について説明がなされた。

平成12年度日本協会表彰者推薦について説明があり、了承された。

5. 競技本部報告

平成13年度競技本部の日程について報告がなされた。

5月　（近畿地区）アジアサーキット
　　　（大阪府）東アジア大会
7月　ヒロシマ国際
8月23～25日
　　　（秋田）第1回世界ビーチハンドボール選手権大会
8月　ジャパンカップ

6. 強化本部報告

アテネ特別強化委員会の組織図について説明がなされた。

実業団選手権を7月～9月に移行したい旨説明がなされた。

7. 日本リーグ

近年のスポーツ環境の変化。企業のスポーツ離れに伴う10万人会の意義について説明がなされた。あわせて、複雑化している日本協会組織の構造改革をプロジェクト21で検討していること、実業団チームが脱実業団化して教職員、クラブと連合する構想について発言がなされた。

HC東京のリーグ2部登録について説明がなされた。

8. 普及特別委員会

普及特別委員会の説明がなされた。6月10日に第1回委員会を開催したが、地域による差の大きいことが再認識された。市町村単位の小学生チームを作っていただきたい。指導普及に関するアンケートを実施したいので協力をお願いしたい。今後問題点を掘り起こし、解決、発展させていきたい。

9. がんばれ10万人会

がんばれ10万人会についての説明がなされた。本年度より、推進本部と事務局の二本立ての体制で行う。事務は外注で行い、作業日は月1回の定例日を設けて会員の管理を行う。

都道府県には会員数により還元率を設定し、今年度分は13年度末に会員数が確定してから各都道府県協会宛に還元する。

3月31日、現在の会員数は1054名である。

10. NTS

NTSについての説明がなされた。今年度は各都道府県代表者を設定していただき、指導者の育成にも当たっていただきたい。さらに良いものにするために検討を進めていきたい。

11. その他

国際委員会関連でハンドボール未開発国にゴールを贈る事業を進めていることの説明がなされた。

国体のブロック予選は8月の下旬に行われるが、その時期は日韓中交流と重なってしまうので、日体協、JOCとの関連もあるだろうが日程を重ならないようにならないかとの要望が述べられた。

日体協に申し入れはしてみるとの回答がなされた。

来年の日韓中交流は熊本で行う予定であるが、8月末の日程は国の行事なので変えられない。それよりも、ハンドボール競技が日韓中実施10種目の競技からはずれることの方が問題であろうとの意見が述べられた。

先輩方の努力でハンドボールが10種目の中に入れてもらっている。その辺のところを理解して、地方協会（ブロック）でも努力してもらいたいとの要望がなされた。

今後のクラブチーム育成の重要性について以下の説明がなされた。企業がスポーツから撤退している昨今であるが、最近の傾向は不況だからチームをやめるのではなく、好況であっても手を引く傾向が見られる。これは企業のスポーツに対する考え方が変化しているためである。スポーツが企業の広告的役割を果たさなくなってきたためで、今後企業がスポーツをするメリットは地域貢献だけになってくるであろう。イズミのクラブ化もこのような傾向の現れである。会社に100％頼るのでなく、早めに地域協会がクラブ作りに着手することを期待する。企業チームがなくなることで、選手の目標が失われる。そのためにもチームを残すことには意味があると思う。

市原常務理事が先の東アジア大会で選手団団長として参加されたことが報告された。

「ハンドボール研究」第3号のご案内

「ハンドボール研究」第3号が出来上がりました。ご希望の方は現金書留で冊数をお書きの上、下記までお申し込みください。

〒150−8050　東京都渋谷区神南1−1−1　岸記念体育会館　(財)日本ハンドボール教会
TEL 03−3481−2361　FAX 03−3481−2367

［定　　価］ 1冊　1,000円
［主な内容］
（講　　演）ハンドボールの運動特性を考える　−体育の目標と関連から−　　浦井孝夫（順天堂大学）
（授業提案）走って　もらって　ドン！（高学年）　　萩原明恵（川崎市立南生田小学校）他
思いっきり投げるぞ！　大玉ごろろん（中学年）　　前田利憲（川崎市立西御幸小学校）他
（講　　義）ボール運動教材としてのハンドボール　　林　恒明（秋田大学）

NTSビデオのご案内

申し込み方法

現金書留で、下記の住所に申し込んでください。
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館内
財団法人　日本ハンドボール協会
NTS強化指導教本＆コーチングビデオ係

1セットの場合：10,000円＋送料（　900円）＝10,900円
2セット以上：（セット数×10,000円）＋送料（1,000円）
セット内容：強化指導教本……1冊、
コーチングビデオ60分VTR……2巻

［9月の行事予定］

〈会議〉
★常務理事会／9月7日(金)

HAND BALL CONTENTS SEP

商社から進化します。

今、あなたの知らない伊藤忠商事が、動き始めました。
その目的は、ニュー・エコノミーゾーンを強化して、新たな産業を開拓していくこと。
そして、商社という枠に捕われることなく、全てのフィールドを見据えて、ビジネスを勝ち抜いていくこと。
商社を超えて"戦略的企業集団"へと進化する伊藤忠商事。その可能性は、まだまだ無限大です。



伊藤忠商事株式会社

URL http://www.itochu.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四二一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十三年八月二十六日印刷 平成十三年九月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円（一冊三〇〇円）